第２期中期目標期間
（平成 22～27 年度）
自己点検・評価報告書

平成 28 年３月

国際室

目　　次

Ⅰ　中期目標期間の実績概要

Ⅱ　特記事項

Ⅲ　次期中期目標期間に向けた課題等

Ⅳ　中期計画の実施状況（主担当分）

Ⅰ　中期目標期間の実績概要

１．組織の特徴

（１）国際室

国際室は，国際連携，国際教育（留学生及び日本人学生）に関わる戦略の策定及び推進，国際水準の教育研究環境の整備並びに国際連携，国際教育に係る諸問題に対処することにより，世界最高の理工系総合大学の実現に資することを目的として平成 14 年４月に設置された組織である。

（２）平成 22 年４月　安全保障輸出管理体制の構築

本学における輸出管理の確実な実施を図り，もって国際的な平和及び安全の維持の観点から我が国の教育研究機関として国際的責任を果たすことを目的として，国際室に全学的な安全保障輸出管理を担う特任教員（国際連携プランナー）２名を配置して，適切な管理体制の整備構築を行った。

（３）平成 22 年８月　国際教育企画調整委員会の設置

本学の国際的な教育活動の企画・立案及び実施に必要な諸施策の調整を行うことにより，本学における国際的な教育活動の一体的かつ円滑な実施に資することを目的として，国際室と教育推進室の下に，新たに国際教育企画調整委員会を設置した。

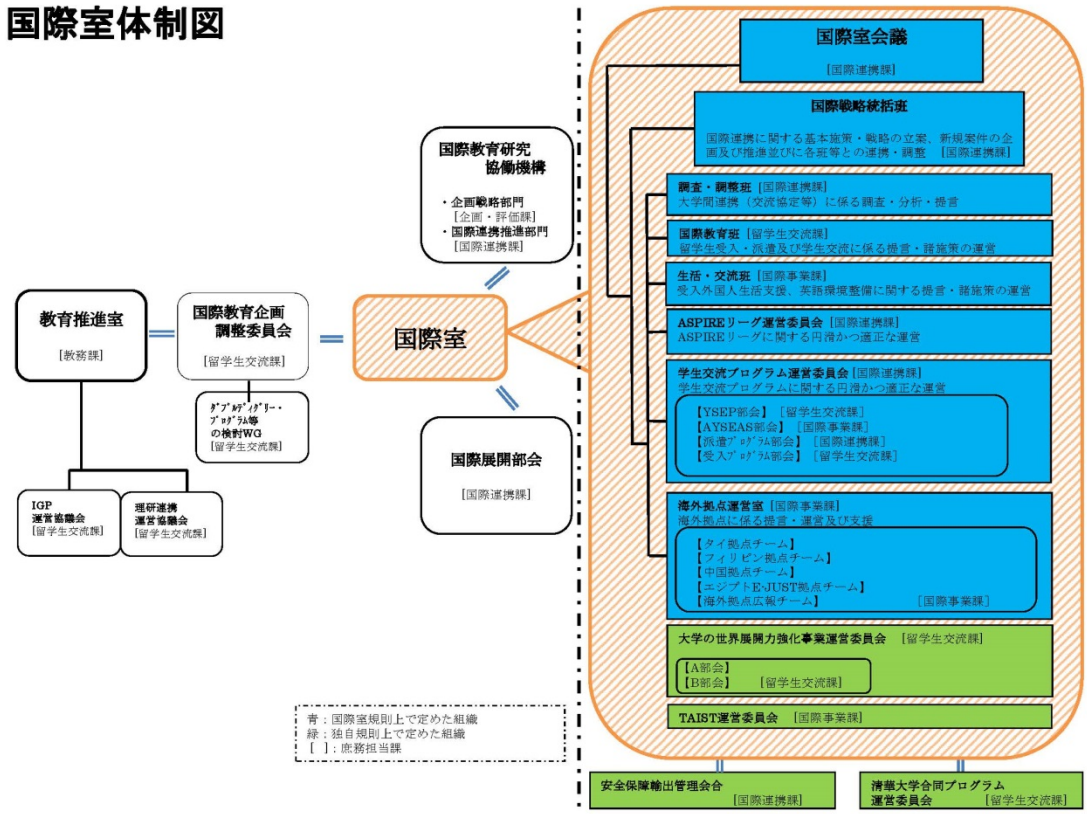
（４）平成 26 年６月　学生交流プログラム運営委員会の設置

世界トップレベルの理工系大学及び学内組織等との有機的な連携を構築・強化し，学生間の学術交流を促進することにより，より一層の本学の国際化推進に資することを目的として，国際室の下に，新たに学生交流プログラム運営委員会を設置した。

（５）平成 27 年７月　国際室の改編

海外大学との連携等をさらに促進するためには，戦略をもって全学的に進めることがより一層重要になることから，国際室規則に規定のなかった国際室企画会議を会議体でなく一つの組織とするため再編成を行った。再編に伴い，国際連携に係る戦略の立案と室内外の関係部署との有機的な連携の構築・強化を所掌とする国際戦略統括班を国際室企画会議に代わる組織として規則に定め，設置した。この設置にあたって「国際室における班の設置に関する申合せ」を定め，調査・調整班，国際教育班，生活・交流班などの国際室規則上の組織を，国際戦略統括班の下部組織として整理した。

（資料１）国際室体制図



出典：国際室作成資料

（資料２）企画立案組織一覧

出典：東京工業大学ホームページ
http://www.titech.ac.jp/about/organization/

２．実績の概要

（1）『東工大の新国際戦略』の策定

本学の将来構想「東工大ビジョン 2009」の実現や「教育ポリシー」の実行を加速していくため,国際室は2010年12月に新国際戦略の検討プロジェクトチームを設置し,本学の国際戦略の見直しを開始した。その過程では，国際戦略ポリシーペーパー（PP2003）の実施状況のレビュー，大学内外の関係者への取材，世界の有力大学の国際戦略や本学の国際化データの調査を実施した。これらに基づく集中的な検討を踏まえ作成した「東工大の新国際戦略に関する提言」について全学的な議論を経た上で，「東工大の国際戦略 2012」を策定し，日本語版・英語版を公開した。

（2）アジア理工系大学トップリーグ（ASPIRE リーグ）

本学主導で平成 21 年に設立したコンソーシアム組織である ASPIRE リーグ（参加大学：香港科技大学，韓国科学技術院(KAIST)，南洋理工大学，清華大学及び本学）を基盤とし，加盟大学の副学長による会議，シンポジウム及び学生ワークショップを行う「ASPIRE Forum」を開催した。また，活動の１つとしてサテライト・ラボを設置するため，平成 23 年度には共同研究に必要な研究助成金を支援する「ASPIRE リーグ研究グラント」を創設し，これまで 15 の研究グループ助成を行った。平成 26 年からはマッチング型の ASPIRE リーグ研究グラントタイプ１を開始し,新規の共同研究の促進を図った。また，上記の学生ワークショップや平成 26 年から南洋理工大学が実施している UG Research Academy への学生派遣，ヨーロッパ理工系トップ大学のコンソーシアムである IDEA リーグとの学生相互派遣を通じ，学生交流を促進した（平成 28 年３月までの交流実績：学生ワークショップ 35 名，UG Research Academy ９名，IDEA リーグサマースクール 11 名参加)。

（3）国際会議開催マニュアルの作成

本学教職員が国際会議を行う際に必要と想定される手続きをまとめたマニュアルを平成 25 年３月に作成し，学内限定の Web サイトに日本語版を公開した。英語版については，平成 27 年度に作成・公開した。マニュアルの活用例として，事務局関係部署との連携・協力のもと，「東工大教育改革国際シンポジウム」を開催することができた。

（4）新外国人学生短期受入制度の整備

外国人学生の短期受入を促進するため，従来の「研究生」に加え，海外大学の学部学生及び大学院生を対象とした「海外交流学生」及び「海外訪問学生」の受入身分を策定し，平成 23 年度から本制度による学生受入を実施した。

（5）留学支援

・(受入) 日本学生支援機構等学外機関が主催する海外における日本留学フェアへの参加や，協定校等重点校における説明会を開催して優秀な留学生の獲得に努めた。ま

た，過年度の参加者の各プログラムへの応募状況をもとに効果検証を行い，戦略的に説明会を実施した。

・(派遣) 本学学生に海外留学についての案内・周知を行うために留学フェアを大岡山とすずかけ台の両キャンパスにおいて実施した。また，過去の留学プログラム参加者による報告会を学生が参加しやすい昼休みの時間帯に実施し，経験者による広報にも努めた。平成 27 年度には留学情報館を設置し，派遣留学に関する情報の提供及び相談対応を行うサービスを開始した。

（6）東京工業大学―清華大学大学院合同プログラム

中国を代表するトップ大学である清華大学と合同で大学院教育を行うプログラムを平成 16 年９月より実施した。平成 27 年度までに修士課程を 132 名，博士課程を 14 名が修了した。平成 27 年度には，本学において 10 周年記念式典を開催した。

（7）「大学の世界展開力強化事業」への採択

平成 23 年，文部科学省による「大学の世界展開力強化事業」に，本学から申請した日中韓のトライアングル交流事業である「日中韓先進科学技術大学教育環 (TKT CAMPUS Asia)」及び世界トップレベルの大学との協働教育を行う交流プログラムである「グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク (TiROP)」の２つのプログラムが採択された。本事業を契機として，学生や若手研究者の派遣，受入れ教員の英語力強化に向けた研修の実施，オンラインによる出願システムの整備，サマープログラムの整備を行った。

（8）YSEP (Young Scientist Exchange Program)

YSEP は海外の協定校の学生を対象とした英語によるプログラムである。日本語や日本文化の講義とともに，研究プロジェクトに携わる機会を提供する。プログラムのタイプごとに，１年間の YSEP focused on Research(YFR)と半年間の YSEP for Experiencing Japan (YEJ)に分かれており，平成 22 年度から 27 年度の間，YFR では 124 名，YEJ では 119 名の海外学生を受け入れた。

（9）ACAP (Academic Cooperation Agreement Program)

ACAP は海外の協定校の学生を３ヶ月から１年間，研究目的で受け入れるプログラムである。本プログラムにより受け入れられた研究室に所属し，受入教員の指導の下で教育研究指導を受け，受入教員及び授業担当教員が許可する場合には授業を受講することも可能である。平成 22 年度から 27 年度の間，311 名の学生を受け入れた。

(10) 学内文書の英語化

平成 24 年度に英文化支援チームを発足させ，事務局の業務上英文化が不可欠な文書に対し，「翻訳」，「英文チェック（英文校正）」 「翻訳業者紹介」の３種類の支援を行った。東京工業大学英訳スタイルガイド及び学内で使用される用語の標準的な英訳を

掲載した用語集を公開することにより,学内文書における書式や用語の統一を図った。

(11) 研究者交流

１）ワークショップの開催

カリフォルニア大学サンタバーバラ校，ウプサラ大学，南洋理工大学，アーヘン工科大学と合同ワークショップを開催した。両大学の研究者が共同研究の可能性を見出すことができた。

２）派遣・招へい支援プログラムの実施

平成 25 年度に採択された文部科学省の補助事業「研究大学強化促進事業」を活用したプログラムで，国際的な共同研究を推進し，研究面での国際競争力の向上を図ることを目的として実施した。

(12) 国際交流会館・80 年記念館

居住者が快適に生活できるように老朽化した備品等の取り替えを行うとともに，環境整備の一環としてインターネット設備の更新や防犯カメラの増設を行った。

(13)東工大―タイ国科学技術開発機構連携大学院(TAIST-Tokyo Tech: Thailand Advanced Institute of Science and Technology)

平成 19 年に発足した本学，タイ国科学技術開発機構（NSTDA: National Science and Technology Development Agency）及びタイの大学グループ（カセサート大学，キングモンクット工科大学ラカバン校，キングモンクット工科大学トンブリ校，タマサート大学シリントーン国際工学部）との連携・協力による大学院で，自動車工学(AE)プログラム，組込情報システム(ICTES)プログラムに加え，平成 24 年に環境工学(EnvE)プログラムを開設した。本学基金室と連携し，日系企業２社が賛助会員となり，寄附金を受け入れた。また，NSTDA 内の TAIST-Tokyo Tech に関連する研究室と賛助会員企業との共同研究を仲介し，産業界との連携を推進した。平成 27 年度からは TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program を実施し，本学学生 19 名をタイに派遣し，また各プログラムから１名ずつの学生を受け入れた。

(14) 海外拠点活動

１） タイオフィス

TAIST-Tokyo Tech に係る講義等の支援， ICTES プログラム等に係る遠隔講義配信の協力，タイ国科学技術フェアへの参加，留学希望者のガイダンスの実施，タイ蔵前会との連携強化，並びに留学希望学生への対応への活動を行った。

２）フィリピンオフィス

オフィスを活用した事業として,平成 26 年より学部学生を対象としたマニラへの超短期派遣プログラムを実施した。平成 27 年に開始されたフィリピン・グローバルシステム開発研修(大学院生対象)についてもオフィスによる支援を行った。

３）中国オフィス

中国にオフィスを置く日本の大学等から成る希平会の会合に出席し，留学生派遣・受入等に関する情報交換及び情報収集，清華大学との大学院合同プログラムの修士課程及び博士後期課程の募集の実施協力，希平会主催の大学説明会に参加し，留学希望者に対して本学概要説明及び個別相談等の活動を行った。

４）エジプト E-JUST オフィス

平成 26 年４月，エジプト日本科学技術大学（E-JUST）内に設置された。同年２月に日本･エジプト両国の国家的事業である E-JUST 設立プロジェクトの総括幹事校に就任したことに伴い，本事業への支援体制を確固としたものとすることを目的としている。支援の一環として，平成 27 年度には E-JUST より技術職員を受け入れ，研修を実施した。

(15) Tokyo Tech-AYSEAS

平成 21 年より実施されていた日本アジア理工系学生交流プログラム（JAYSES）を前身とし，単位付与ができるようプログラムを再整備の上，平成 25 年度にアジア理工系学生派遣交流プログラム「Tokyo Tech-AYSEAS（Asia Young Scientist and Engineer Advanced Study Program)」を開始した。学術交流協定による大学連携のネットワークを活用した本学及び ASEAN 14 大学（バンドン工科大学，ガジャマダ大学，インドネシア大学，デラサール大学，フィリピン大学ディリマン校，南洋理工大学，シンガポール国立大学，チュラロンコーン大学，カセサート大学，キングモンクット工科大学ラカバン校，キングモンクット工科大学トンブリ校，タマサート大学，ハノイ工科大学，ホーチミン市工科大学）が参加する学生海外派遣プログラムとして，平成 25 年度から平成 27 年度の間に 47 名を派遣した。

Ⅱ　特記事項

１．優れた点

（１）スーパーグローバル大学創成支援事業での学生交流プログラム

スーパーグローバル大学創成支援事業を活用して，８つの派遣プログラム（スウェーデン，ドイツ・オーストリア，インド，タイ（２事業），オーストラリア夏・春，フィリピン），本学が主導するタイのトップ大学及び研究機関との国際連携大学院プログラムを活用した「TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program」及びフィリピンオフィスを活用したグローバルシステム開発研修を開発・実施した。また，既存のプログラムとして，単位付与を伴う全学のアジア理工系学生派遣交流プログラム「Tokyo Tech -AYSEAS」やフィリピン拠点を活用した「フィリピン超短期派遣プログラム」など実施した結果，全学的な学生派遣プログラムによる日本人学生の海外派遣者数は，平成 22 年～27 年にかけ，一年度あたりの派遣学生数を平成 22 年の 72 名から平成 27 年の 250 名へと約 3.5 倍に増加させた。

（２）ASPIRE リーグでの連携活動を通じた世界トップレベルの理工系大学との交流

本学主導で，アジア地域の理工系トップ５大学のネットワークを構築し，そのネットワークを活かした共同研究を推進するため ASPIRE リーグ研究グラントを設立するとともに，共同研究の拠点となるサテライト・ラボを本学 15 の研究室に設置した。また，マッチング型の ASPIRE リーグ研究グラントタイプ１を開始することにより，新規の共同研究を促進した。

ASPIRE リーグが実施する短期の学生交流プログラムやヨーロッパの理工系トップ大学のコンソーシアムである IDEA リーグのサマープログラムへの学生の相互派遣などを実施し，学生交流を促進した。ASPIRE リーグ事務局として，リーグのドメイン（aspireleague.org）を取得，公式 Web サイトのリニューアルを行い，リーグの情報発信力の強化を図った。

（３）学生の海外派遣・留学の際の危機管理体制の構築

危機管理マニュアル，学生向けの手引きを改訂したほか，危機管理会社と契約するなど，危機管理体制を充実させた。

（４）「大学の世界展開力強化事業」CAMPUS Asia による学生交流の実施

ASPIRE リーグ等において関係の強い清華大学，KAIST とコンソーシアムを形成し，学修計画・記録による質の保証を伴った学生交流をさらに活性化した。質の保証のための科目履修・研究活動計画書の活用は，（独）大学評価・学位授与機構が実施した「キャンパス・アジア」モニタリングにおいて，優良事例として取り上げられた。

【参考】『質保証からみた「キャンパス・アジア」：優良事例集』

（2014 年 11 月，（独）大学評価・学位授与機構）

URL:http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/good_practices_jpn.pdf(P.50 に上記取組について紹介)

（5）「大学の世界展開力強化事業」TiROP による学生交流の実施

既存の協定校との連携強化だけでなく，カリフォルニア工科大学等，主に米国を中心とするリーディング大学との新たな連携体制を構築し，学修計画・記録による質の保証を伴った学生の交流を継続的に行った。また，学生交流プログラムで構築したネットワークを活用して，若手研究者の協定校への派遣を行い，重層的な交流を実現した。

（6）英文化支援チームによる英文化サポート

教育改革においては，留学生の獲得，海外大学との単位互換の促進等の観点から，英文化支援チームでは，特に平成 27 年度中，シラバス英文化への対応及び本学の新しい顔としての「学院 Web ページ・系等 Web サイト」の翻訳監修を最優先課題と位置付け，大型プロジェクトとして推進し，限られた人的・時間的リソースでこれらを完遂した。また，教育改革に伴い新規に学内用語の英訳が大量に必要となったが，綿密な議論のうえでこれらを提案し，英語による情報発信体制整備のアドバイザーとして不可欠な役割を担った。

また，外国人等にも円滑に利用できるように，キャンパス内の総合案内板，誘導表示や建物内全館案内表示板を，英語名をメインに示した英日表記に更新し，国際化推進の視覚化を図った。さらに，教職員に対し重要事項を連絡する一斉メールは，原則日英併記とする対応を行った。

（7）海外拠点活動

平成 26 年度に東工大エジプト E-JUST オフィスを設置した。教員を派遣し，講義，研究指導，専攻運営支援等，エジプト日本科学技術大学（E-JUST）事業に対する支援活動を行った。平成 25 年度以降，E-JUST から本学への博士課程学生の累計受入人数は計 21 名となった。

フィリピンオフィスを活用した「フィリピン超短期派遣プログラム」やタイオフィスを活用した「TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program」等，海外オフィスを活用した学生交流事業を拡充したほか，留学説明会を実施し，本学への留学を促進した。

（8）部局等による海外オフィスの設置・改廃手続き及び要件の明確化

部局等による海外オフィスの設置・改廃手続き及び要件を明確化するとともに，実際の活動が行われていないオフィスの閉鎖等，整理を行った。

2．特色ある点

（1）Tokyo Tech - UCSB Joint Symposium 及び Student Workshop の開催

スーパーグローバル大学創成支援事業の一環として，世界トップ大学と戦略的に連携強化を図る新たな試みとして，複数の分野の研究者及び学生が参加する合同シンポ

ジウム及びワークショップをカリフォルニア大学サンタバーバラ校と開催し，トップダウンにより全学的な交流の機会を創出した。

（２）国際会議開催マニュアルの Web ページ公開

学内での国際会議・シンポジウムの実施を支援するため，会議開催に必要な情報を国際会議開催マニュアルとしてまとめ，教職員向けのページに日英表記で掲載した。このマニュアルを利用し，担当の副学長の下，複数の部局が連携し，シンポジウム等を実施する体制を構築した。

（３）派遣・受入留学生交流イベントの実施

授業料不徴収協定に基づき受け入れている留学生と，本学から協定校に派遣予定の学生の交流会を新たに企画・実施した。

（４）東京工業大学・清華大学大学院合同プログラムの実施

日本語・中国語・英語を駆使して国際的リーダーシップを発揮できる優れた理工系人材を育成することを目的として，大学院レベルでは我が国最初の，ダブル・ディグリープログラムとしてスタートした。平成 26 年には開始 10 周年を迎え，両大学間で築かれた信頼関係が，CAMPUS Asia プログラムなど他プログラムを新規に展開する際の基盤にもなっている。

（５）「Women in STEM―理工系分野での女性の活躍をめざして」の実施

国際的な視点から女子学生の活躍を考える「Women in STEM―理工系分野での女性の活躍をめざして」を，ケネディ駐日米国大使を招き，本学の女子学生，近隣の女子高生を対象に，TiROP プログラムの一環として開催した。パネルディスカッションでは，より多くの女子学生が理工系分野に関心を持ち学ぶことを奨励した。

（６）大学の国際化に向けた翻訳体制整備の取組

大学の文書を英文化するための環境整備として，民間の翻訳会社でも多数採用されている翻訳支援ソフトウェアを導入し，翻訳物のアーカイブと品質管理を行っている。このソフトは，第一義的には，過去の翻訳成果の中から，現在翻訳している文と近いものを自動提案するツールである。職員が使用法に習熟することで，大学として発信する文書の英文品質の維持，一貫性のある翻訳とすることが容易となっている。副次的なメリットとして，大量の翻訳物を外注に出す際，この機能により過去の翻訳成果をある程度当てはめられる場合があり，翻訳料金の削減に役立っている。これにより，翻訳に携わるメンバーが入れ替わった際にも，自動提案機能を利用することで，本学の翻訳のスタイルや言い回し等を引き継いでいくことが可能となり，将来的に他部署等でも同ソフトを導入することにより全学的な英文品質，一貫性を保つことが可能である。

（７）Thailand Advanced Institute of Science and Technology (TAIST-Tokyo Tech)

平成 19 年度に設立した，東工大，タイ国立科学技術開発庁（NSTDA），タイの大学グループが連携した国際協働の大学院である「TAIST-Tokyo Tech」において，２つの教育研究プログラム（自動車工学・組込情報システム）に加え，平成 24 年度より環境工学に関するプログラムを開始し，設置以降計 164 名の修了生を輩出した。また，「TAIST-Tokyo Tech」の目的に賛同する企業や本学 OB からの寄付金を活用した奨学金制度を設置した。また，この枠組みを活用した双方向の学生交流事業を開始した。このように，高度な知識を有する研究技術者・開発担当者を養成し，日・タイの産業界や同窓生からも支援を受け，アジアでの理工系高度人材育成ネットワークの構築に成功した。

（８）Tokyo Tech -AYSEAS (Asia Young Scientist and Engineer Advanced Study Program)

Tokyo Tech-AYSEAS は，学術交流協定による大学連携のネットワークを活用し ASEAN 諸国の大学から学生が参加する，グローバル理工人育成コースの実践型海外派遣プログラムの１つである。JAYSES（Japan-Asia Young Scientist and Engineer Study Visit）を前身とし，平成 25 年度に単位化され，毎年実施した。参加学生は，ASEAN 各国において，現地・近隣諸国の大学生とともに企業，政府機関，大学，JICA 等の施設を訪問し，異文化間コミュニケーションを通して国や文化の違いを超えて相互理解を深め，学生の国際感覚の醸成に寄与した。

Ⅲ　次期中期目標期間に向けた課題等

（1）スーパーグローバル大学創成支援事業のさらなる発展

スーパーグローバル大学創成支援事業における国際化を推進する各事業を着実に実施するためには，世界トップ大学との連携をより一層戦略的に強化することが必要である。そのために，今後は，地域の特性（欧州，米国，アジアなど），言語（英語圏，非英語圏），各大学の特性（理工系大学，総合大学，その大学の強い分野など）などを考慮し，連携することにより，グローバル社会に貢献する本学の強みがさらに伸ばせる大学を選定する。そして，これに基づき，協定の締結，国際的な大学コンソーシアムや共同学位プログラムを構築することが重要である。

また，スーパーグローバル大学創成支援事業に掲げた派遣・受入学生数の目標を達成するため，引き続き①学生のレベルに応じた多種多様な派遣プログラム，②海外大学のニーズに即した受入プログラム，③海外オフィスを活用した学生交流プログラム等を開発・実施するとともに，各部局においても学生交流プログラムを促進する全学的な実施体制を整備する必要がある。

（2）事務職員の国際化対応能力向上のための研修の充実

世界トップテンのリサーチユニバーシティを目指す本学にとって，事務職員の国際化対応能力を向上させることは，本学の目標を達成するための喫緊の課題である。これまで実施してきた研修の効果を検証するとともに，海外大学・研究機関等への事務職員の派遣や受入など，相互交流を通じた研修を実施する。

（3）各部局が実施する留学プログラムや私費による留学の危機管理体制の整備

危機管理サービスに加入していない部局があり，私費留学の危機管理についても体制が未整備となっている。

（4）短期外国人留学生と受入研究室の適切なマッチング

短期外国人留学生受入れプログラムにおいては，留学生と受入研究室における研究分野の円滑なマッチングを行うことが課題である。

（5）ハウジングオフィス構想

外国人留学生，日本人学生のみならず，外国人研究者の宿泊施設ニーズに対応するための体制づくりが課題である。

（6）海外拠点の活動の更なる強化，新たな海外拠点のあり方の検討

海外拠点の活動をさらに強化し，新たな拠点のあり方について検討することが必要とされている。

≪第１期中期目標期間において抽出した課題の改善状況≫

（１）国際戦略ポリシーペーパーの改訂

策定後 7 年が経過しており（平成 20 年度（2008 年度）に見直し実施）現在に至る達成度や進捗状況を見ながら，改訂を行う。

（改善状況）

2003 年７月に策定した「東京工業大学の国際化戦略」(2003.7）の実施状況をレビューするとともに，世界の有力大学の国際戦略を分析するために，米国，欧州，アジア，オセアニアの有力大学の国際化ポリシー比較表を作成した。これらを踏まえて，教職員・学生・同窓会関係者へのインタビュー，企画立案組織・部局等への意見照会を行い，新たに「東工大の国際戦略 2012」を策定・公表した。

（２）学生の海外派遣の推進

短期留学制度の活用など,本学学生が海外留学をより身近なものとして考えられる体制を整え，海外派遣留学生が増加するよう推進する。

（改善状況）

英語でのコミュニケーションや留学をより身近に感じさせる働きかけとして，学内での留学説明会の実施，英語による意見交換の場の提供，派遣交換留学経験者による留学成果報告会の実施などを継続して行った。

平成 23 年度に採択された大学の世界展開力強化事業の下，清華大学及び KAIST（韓国科学技術院）と連携した「CAMPUS Asia」，MIT や Caltech など欧米の先導理工系大学と連携した「TiROP」において短期派遣プログラムを開発・実施し，学生が，派遣先大学で授業の履修，もしくは研究活動を行った。CAMPUS Asia，TiROP において，平成 24 年度から平成 27 年度までの間に，122 名の学生を派遣した。

平成 24 年度に採択されたグローバル人材育成推進事業において,多角的なグローバル人材の育成を目指し，国際意識を醸成し，アカデミックな英語のリーディング，ライティング力を強化するとともに，他者を理解するために必要な想像力や，他者とともに歩むために重要なチームワーク力を育むグローバル理工人育成コースを新設した。本コースにおいて，学部生を対象として米国・英国・フランス・オーストリア・シンガポール・インドネシア・スリランカの７か国への派遣プログラムを実施し，ワシントン大学やインペリアルカレッジ等のトップ大学を訪問した。

また，平成 26 年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業においては，ドイツ・オーストリア超短期派遣プログラム，スウェーデン超短期派遣プログラム，理工系学生のための海外英語研修プログラム，海外英語研修プログラムの４つの新規派遣プログラムを開発・実施し，スウェーデン王立工科大学等を訪問し，４つの新規プログラムで合計 44 名を派遣した。

本学が主導で設立した ASPIRE(Asian Science and Technology Pioneering Institute

of Research and Education) League では，平成 22 年より議長校が毎年 ASPIRE Forum 開催に合わせて，Student Workshop を開催しており，本学から毎年学生を派遣している。平成 26 年からは南洋理工大学が Undergraduate Research Academy を実施し，学部生を派遣した。平成 22 年からは IDEA リーグ加盟大学との連携として，アーヘン工科大学，デルフト工科大学が実施するサマースクールへの学生派遣を行った。

さらに，これらの事業以外でも，本学が主導するアジア・オセアニアのトップ大学工学部ネットワーク「AOTULE (The Asia-Oceania Top University League on Engineering)」における学生ワークショップ， ASEAN 諸国の協定校学生が参加する学生交流プログラム「Tokyo Tech-AYSEAS」，ジョージア工科大学等を訪問する理工系大学体験型短期派遣，海外オフィスを活用した超短期派遣などにも学生を派遣し，派遣先大学の講義参加，研究室ゼミ参加，企業訪問などを組み込んだ多種多様な留学制度を構築することにより，学生の留学に対する意識の向上を図った。

長期留学を目指す学生に対しても，より良い学修環境整備を目指し，博士課程学生を中心に，３ヶ月以上の海外経験を授業科目として認定し単位化する取組みを実施した。また修士課程学生の海外留学促進を図り，国際室から教育推進室へ留学期間を延長することの検討を依頼した結果，教育推進室にて，学内取扱いにおける留学期間の上限を１年から１年６か月に延長する規則改正が行われた。

以上のプログラム等を通じて，留学生を含む派遣学生数は平成 22 年度から平成 27 年度にかけて，80 名から 289 名へと約 3.6 倍にまで増加した。

（３）留学生の受入

地域別の留学生獲得戦略を調査し，質の高い留学生の確保に取り組むとともに，学部の受入れ体制を整備し，特に短期留学生のプログラムを検討して，受入の早期実現につとめる。さらに長期プログラムの検討を開始し，国際連携のアジアのハブとなるべく事業を推進する。

（改善状況）

海外大学から学部レベルの優秀な学生の本学への受入が可能となるように，平成 23 年度に海外交流学生及び海外訪問学生の制度を新設し，海外からの短期受入学生の手続きの簡素化とワンストップサービスを図り，受入れに係るガイドラインやマニュアルの整備などにより，一元的でスムーズな学生受入れを可能にした。

また,平成 24 年度より海外交流学生の出願手続きのオンライン化を大学の世界展開力強化事業において試験的に開始し,平成 25 年度より対象を全ての海外交流学生及び海外訪問学生に拡大し本格実施した。これにより，申請者および本学担当者の事務負担が軽減された。

海外拠点で本学独自に行う留学説明会「Tokyo Tech Seminar」の開催とともに，関連団体による留学フェアのうち高い効果が期待できるものを選定して参加するなどして，アジア圏の優秀な海外大学生獲得のための広報活動を展開した。また，留学説明会参加者で本学に入学した学生に個別インタビューを行い，本学を知ったきっかけや説明会への要望を聴取し，検証結果を広報戦略策定上の参考データとして活用すると

ともに，留学説明会参加者データを基に，国際大学院プログラム及び YSEP，ACAP 等の短期留学プログラム出願数に占める海外拠点説明会参集者割合を分析し，効果検証を行った。特に，平成 20 年から平成 27 年のうち，国際大学院プログラム（A）の応募者のうち，海外拠点説明会参集者の割合は 10.69%である。

大学の世界展開力強化事業により２つのプログラムが採択され，CAMPUS Asia では，KAIST 及び清華大学が協力して実施する国際的な環境における研究活動を重視した教育プログラム， TiROP では，欧米等理工系大学との連携により研究体験型海外教育プログラムや共同指導型交換留学等を実施することにより，本学が中心となり海外トップ大学とのネットワークを構築し，平成 24～27 年度にかけて，合計 168 人の学生を受け入れた。

（４）国際ブランディング，国際広報の拡充

海外から本学へ入る入口は正門ではなく，インターネットであるという認識のもと，web ネットワークをさらに充実させ，本学の国際活動が一望出来るように拡充するとともに，科学技術の情報発信が可能な仕組みを検討する。国際評価パネルの創設や，ホームページならびに人的ネットワークの整備を進め，国際的ブランディングを強化する。

（改善状況）

全学 web サイトの国際交流ページのリニューアルを行い，担当毎にデザインが異なっていた入試情報や留学生向け情報などを集約し，アクセスしやすさの向上を図るとともに，ターゲットナビゲーション（在学生向け，本学への留学希望者向け，研究者向け）を設け，閲覧者が必要情報を得やすい構成とするなど，利便性を向上させた。また，「データでみる国際交流」，「留学生へ伝えたい 10 のこと」など分かりやすい言葉とビジュアルで本学の魅力や強みをアピールするページや「留学生のための生活情報」，「留学生の進路」など留学前の不安を解消するページ等を新設し，本学の情報発信力を強化した。また，事務局の英文化支援を通じて，英文化支援チームが蓄積していった情報をもとに本学で使用する英語の用語や翻訳スタイルを整理して，学内の翻訳の統一性と翻訳の質の向上を図ることによって，発信力を強化した。

東工大ニュースにおける英文記事の発信数を増加させ，特に，国際関係のニュース（シンポジウム開催報告等）を積極的に英文記事として掲載した。また，研究成果のプレスリリースを配信するとともに，米 Science　online news 等海外メディアへのプレスリリースや英文ニューズレターをメール配信した。その結果，平成 27 年度の東工大オフィシャルサイト（英語版）のトップページビュー数は，平成 26 年度に比べ，124%となった。

（５）海外拠点の役割の明確化，戦略的な拠点活動の再検討

2002 年にタイオフィスを設置後，フィリピン，中国と設置してきたが，これまでの事業実績を検証しながら，海外拠点の役割を明確化し，戦略的な拠点活動を再検討する。

アメリカ，ヨーロッパ，そしてアジアの各ブロックの国際戦略を明確にし，卒業生など現地の関係者の参画を含め，適切な規模で新たな拠点体制を整備する。

（改善状況）

国際室調査・調整班に「東工大世界展開の戦略策定に係るタスクフォース」を設置し，海外拠点の役割等について検討した。この中で，欧米については当面全学レベルのオフィスを持たず，現在動いている交流プログラムの拡大や大学間コンソーシアムの活動活性化等を図りながら，国際室において幅広な視点から戦略を検討することとした。

新たな海外オフィスとしては，かねてより本学が協力している「エジプト日本科学技術大学(E-JUST)」事業に対する支援体制を確固としたものとするため，また，エジプトと本学の学術交流の活性化，アラブ・北アフリカ地区における広報活動の拠点として，エジプトE-JUSTオフィスを開設した。

既存の海外オフィス（タイ，フィリピン，中国）については，各拠点別会議にて戦略的な拠点活動について精査し，大学の戦略に沿った効果的な活動を行った。

例えば，海外オフィスを活用し，グローバル人材育成推進事業の一環として，「フィリピン超短期派遣プログラム」や，スーパーグローバル大学創成支援事業による派遣・受入れ双方向の学生交流プログラム「TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program」，またASEAN諸国の協定校学生が参加する学生交流プログラム「Tokyo Tech-AYSEAS」を実施した。

また，「TAIST-Tokyo Tech」では３つの教育研究プログラムを継続運営しており，平成19年度の設立以降，計164名の修了生を輩出した。「TAIST-Tokyo Tech」の目的に賛同する企業や本学OBからの寄付金を活用し，学生に生活費相当を支給する奨学金制度を設置した。このように，高度な知識を有する研究技術者・開発担当者を養成し，日・タイの産業界や同窓生からも支援を受け，アジアでのネットワークの構築に成功した。

その他，海外オフィスの機能強化を目的として，スーパーグローバル大学創成支援事業により，タイオフィスの現地雇用スタッフを本学に招へいし，研修を実施した。

また，海外オフィスで本学独自に行う留学説明会「Tokyo Tech Seminar」の開催とともに，関連団体による留学フェアのうち高い効果が期待できるものを選定して参加するなどして，アジア圏の優秀な海外大学生獲得のための広報活動を展開した。中国では中国国家留学基金管理委員会（CSC）の「国家建設高水平大学公派研究生項目派遣事業」を活用した入試制度の広報に力を入れた。更に，平成25～27年度の同制度による入学者（CSC奨学金受給生）を招待した交流会を開催し，学生同士の交流を図るとともに，出願者増加のための方策について調査した。留学説明会参加者データを基に，国際大学院プログラム，YSEP及びACAP等の短期留学プログラム出願数に占める海外オフィス説明会参集者割合を分析し，効果検証を行った。その結果，留学説明会に参加した学生が，実際に参加後数年に渡り出願しており，現実的な効果があることが分かった。また，留学説明会を継続的に実施した海外オフィス所在国では，設置以来，留学生数の増加傾向が見られた。部局等による海外オフィスの設置・改廃手続き及び要件を明確化するとともに，実際の活動が行われていないオフィスの閉鎖等，整理を行った。また，スーパーグローバル大学創成支援事業では教員・学生・事務職員をユ

ニットとして海外教育機関に派遣する「ユニット派遣制度」を平成 28 年度に実現することとしており，これと連携した新たな拠点のかたちについても検討している。

（6）留学生・卒業生ネットワークの強化

海外同窓会と連携し，留学生同窓会名簿の整備などを継続し，他地域への展開も視野に，本学を卒業修了した留学生の名簿の整備を進め，現在の所属連絡先等，新しい情報を逐次改訂出来るデータベース化を試みる。

（改善状況）

国際同窓生データベース「TAMEDAS」と「東工大名簿システム(TMS)」を統合した新システム「東工大オンラインコミュニティ」の稼働にあたり，開発担当である基金室と協力し,これまで TAMEDAS の整備を通じて得られた知見を新システムに引き継いだ。

（7）安全保障貿易管理体制の整備

関係法令を受け，本学で策定した東京工業大学安全保障輸出管理規則に基づき，専門の人を活用し，管理・運営体制の整備，学内周知を図り，適切な運用を実施する。

（改善状況）

東京工業大学安全保障輸出管理規則を策定し，国際連携プランナー教員として専門家を雇用することで，管理・運営体制の整備を図った。関係事務部との連携強化により，諸手続きの際に事務から教員に対して安全保障輸出管理上の確認を促す運営プロセスを定着させた。また新採用教員セミナーや教授会での国際連携プランナーによる説明会を引き続き実施し，各教員による自己審査システムをウェブページに組み込むなど，学内周知徹底へ向けた取り組みを多く行った。案件ごとに自己審査と国際連携プランナーによる詳細な審査を組み合わせることで，教員に過度な負担をかけることなく，適切な運用を行った。

Ⅳ　中期計画の実施状況（主担当分）

中期計画【36】「世界の理工系トップ大学・研究機関との連携を大学及び部局レベルで強化し，研究者及び学生の交流を促進する。また，マサチューセッツ工科大学等世界トップレベルの海外大学から招へいした外国人教員等による講義等を通じて，学生の国際的な視野を拡げる。」に係る状況

本学の目標である「世界最高の理工系総合大学の実現」に向け，新たに「国際戦略 2012」を策定して，各種取組を実施し，戦略的な大学連携を推進した（資料 36－１）。

理工系トップ大学との連携強化については，本学の強みを活かし本学主導で設立した５大学（香港科技大学，韓国科学技術院，南洋理工大学，清華大学，本学）間のコンソーシアム組織である ASPIRE リーグの事務局として，ASPIRE Forum（副学長会議・シンポジウム・Student Workshop）（資料 36－２）や ASPIRE 研究グラントにより，５大学間の共同研究を推進し（資料 36－３，４），南洋理工大学主催の Undergraduate Research Academy へも参加するとともに，ヨーロッパ理工系トップ大学コンソーシアムの IDEA リーグと連携して両リーグ間の学生交流を促進した（資料 36－５）。

また，カリフォルニア大学サンタバーバラ校，ウプサラ大学，南洋理工大学との合同シンポジウムを開催し，複数分野間での教育研究交流を進めた（資料 36－６）。

学生交流については，平成 23 年度に海外からの短期学生受入制度を改定し，全学レベルでは YSEP（資料 36－７）や ACAP（資料 36－８）により，部局レベルでは本学主導で設立した AOTULE（アジア・オセアニア工学系トップ大学リーグ）等により積極的な交流を促進した。これにより，長期留学の意識づけができた。

平成 23 年度に「大学の世界展開力強化事業」に２件（CAMPUS Asia，TiROP）が採択され，CAMPUS Asia では，10 年以上継続的に実施している清華大学との大学院合同プログラムを基盤にさらに学生交流を活性化するとともに，韓国科学技術院とは共同学位プログラム実施のための協定書を締結し，今後の学生交流の深化につなげた（資料 36－９，10）。TiROP では，既存の欧米等協定校との連携強化に加え，カリフォルニア工科大学等の米国トップ大学との連携体制を築き，参加学生については双方の大学の間で「修学・研究計画書」を取り交わし，これに基づき研究指導・助言等を行うなど，質保証を伴う交流を実施した（資料 36－11，12）。また，当該事業で培ったネットワークを拡大して，新たな短期受入プログラム（Tokyo Tech サマープログラム）を開発し，平成 28 年度実施に向けて学生募集を開始した。これらの海外派遣学生交流プログラムを実施した結果，平成 22～27 年度にかけ，一年度あたりの派遣学生数を約４倍に増加させた（資料 36－13）。

研究者交流については，平成 25 年度より「研究大学強化促進事業」の下，海外の大学・企業等との国際共同研究推進のための派遣・招へい支援プログラムを設け，これまでに 124 件の支援を行った（資料 36－14）。

学生の国際的な視野拡大については，平成 26 年度に「世界トップレベルの海外大学からの教員招へいプログラム」を設け，計画のとおりマサチューセッツ工科大学等から研究者を招へいして大学院講義を開講するとともに若手研究者・学生との教育研究交流を図る機会を提供した（資料 36－15～17)。

さらに，海外トップ大学・政府機関等から役員・研究者・専門家等を招き，講演会やシンポジウムを開催することにより,本学を拠点とする多様な交流活動が推進された。特に，ルース駐日米国大使に始まり，ケリー米国国務長官やランドール米国エネルギー省副長官等，主に海外政府高官による講演会を本学主催で実施することにより，教職員・学生の国際的な視野を大きく拡げることができた（資料 36－18)。また，UNESCO などの国際機関へのインターンシップを実施した。

（資料 36－１）「国際戦略 2012」について

国際戦略2012

東工大の国際戦略2012

～「世界最高の理工系総合大学の実現」へ向けて～

本学が2002年に他大学に先駆けて国際室を設置し、2008年に極めて先進的な国際化ポリシーペーパー(PP2008)を策定してから、約9年が経過した。その間、国際大学院プログラムや清華大学との大学院デュアルディグリープログラムの実施、海外拠点やタイ政府・大学との連携大学院(TAIST)の設置、アジア理工系大学トップリーグ(ASPIREリーグ)の創設などに代表されるように、本学は国際化の面で大きな成果を上げてきた。

同期間に、日本では少子高齢化の進展と経済停滞を経験し、昨年には東日本大震災とこれに起因する原子力災害という未曽有の事態も発生し、日本の復興への底力が試されている。世界に目を転じれば、資本や労働といった市場が国の枠を越えていくという意味で経済社会のグローバル化が進展し、新興国は想像を超える勢いで経済発展を遂げており、また、地球環境問題や世界的金融危機をはじめとする地球規模での課題も顕在化するなど、我が国を取り巻く環境は大きく変化している。

これら状況変化に対応するとともに、本学の将来構想「東工大ビジョン2009」の実現や「教育ポリシー」の実行を加速していくため、国際室は2010年12月に新国際戦略の検討プロジェクトチームを設置し、本学の国際戦略の見直しを開始した。その過程では、PP2008の実施状況のレビュー、大学内外の関係者への取材、世界の有力大学の国際戦略や本学の国際化データの調査を実施した。これらに基づく集中的な検討を踏まえ作成した「東工大の新国際戦略に関する提言」について全学的な議論を経た上で、ここに「東工大の国際戦略2012」を策定する。

本戦略の実施により本学の一層の国際化を通じて本学の長期目標である「世界最高の理工系総合大学の実現」を達成し、日本が再び世界をリードしつつ発展していくことに結実することを願うものである。

出典：東京工業大学ホームページ
http://www.titech.ac.jp/about/policies/affairs.html
「国際戦略 2012」本文
http://www.titech.ac.jp/about/policies/pdf/policypaper.pdf

（資料 36－２）ASPIRE Forum 開催報告（抜粋）

7月18日～24日に「ASPIREフォーラム2015」が香港科技大学（中国・香港）で開催され、丸山俊夫理事・副学長（教育・国際担当）、関口秀俊副学長（国際連携担当）、ASPIRE事務局より三原久和教授（大学院生命理工学研究科長）等が出席しました。このフォーラムは、本学が加盟しているASPIREリーグ※1が毎年開催しているものです。丸山理事・副学長一行は、7月23日～24日に行われたシンポジウムと副学長会議に出席しました。

※1　**ASPIRE（アスパイア）リーグ**：本学が発案し、2009年に設立されたアジア地域における理工系トップ大学のコンソーシアム。科学技術の発展と人材の開発を通して、アジアにおけるイノベーションのハブを形成することが目的。加盟大学は、清華大学、香港科技大学、南洋理工大学、韓国科学技術院と東工大の5大学。東工大は、設立当初より事務局を務める。

ASPIREフォーラムは、加盟大学の副学長やシニアスタッフが各大学のリーグ内での活動について報告する「副学長会議」や、テーマに沿った研究成果を各大学の研究者が発表する「シンポジウム」、学生向けの「ワークショップ」で構成されています。今年のテーマは「Smart Green Cities（スマートグリーンシティ）」でした。

出典：本学ホームページ http://www.titech.ac.jp/news/2015/032068.html
報告書本文 http://www.ipo.titech.ac.jp/aspire/english/news/detail_1252.html

（資料 36－３）ASPIRE リーグ研究グラント募集要項（平成 27 年度）（抜粋）

平成26年 11月

東京工業大学
平成 27 年度 ASPIRE リーグ研究グラント（タイプ1・タイプ2）
募集要項

1. 目的

ASPIRE リーグ（The Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education (ASPIRE) League）は、東京工業大学、香港科技大学（The Hong Kong University of Science and Technology・中国、香港）、韓国科学技術院（Korea Advanced Institute of Science and Technology [KAIST]・韓国、大田）、南洋理工大学（Nanyang Technological University・シンガポール）、清華大学（Tsinghua University・中国、北京）により、科学技術の向上と人材育成を通しアジア地域におけるイノベーションのハブとして持続的社会の形成に貢献することを目的として 2009 年に創設されたコンソーシアムです。

平成 22 年 7 月に開催された ASPIRE リーグ副学長会議においては ASPIRE リーグの活動のひとつとして、サテライトラボの設置が合意されました。本学はこの実施のため本学の教員を研究代表者とし、ASPIRE リーグ参加大学間で実施される ASPIRE リーグの趣旨に合致した共同研究の実施に必要な研究グラントを配分します。研究グラントを受領した教員は、研究グラントを ASPIRE リーグ参加大学の研究者との共同研究を通じた交流を促進するための旅費を中心に支出するとともに、既存の自身の研究室または新たな研究スペースをサテライトラボとして ASPIRE リーグ参加大学との共同研究実施に利用できるようにすることとします。

本研究グラントは交流の促進を目的とし、今後の共同研究の発展の契機となることを期待し実施します。

2. 研究グラントの種類

平成 26 年度から、新たな試みとして本研究グラントをタイプ1とタイプ2に分け募集し、平成27年度も同様に実施します。従来の研究グラントはタイプ2です。

タイプ1（申請時には共同研究者を定めている必要がないもの）：
研究代表者（本学教員）を選考後、ASPIRE リーグ事務局が当該研究代表者の申請内容を ASPIRE リーグ参加大学に提示し、共同研究者を募り、研究者のマッチングを行います。

タイプ2（申請時には共同研究者が定まっているもの）：
研究代表者（本学教員）が ASPIRE リーグ参加大学に所属する共同研究者との合意の下に申請するものです。

出典：本学ホームページ http://www.ipo.titech.ac.jp/aspire/2015_ASPIREGrant_Outline_J.pdf

（資料 36－４）平成 23～27 年度 ASPIRE リーグ研究グラント採択一覧

2011～2015 年度　ASPIRE リーグ研究グラント採択一覧

年度	共同研究に参加する海外大学（○印）				テーマ
	香港科技大学	韓国科学技術大学	南洋理工大学	清華大学	
2011	○	○	○		高機能性耐熱性樹脂
			○	○	生物系および化学系プロセスを統合した排水処理技術の開発
	○	○	○	○	マルチマテリアル構造体の健全性評価とスマート構造化技術に関する国際共同研究
2012			○	○	低電力消費型スピンデバイスの開発
			○	○	廃棄物系バイオマスを利用した酵母によるバイオディーゼル生産技術開発
	○	○		○	不確実情報下でのソフトコンピューティングによる知的情報処理に関する研究
2013		○		○	CPFEM 解析のための材料データベースの構築
		○	○		表面増強ラマン分光法を用いた次世代高感度・高選択性バイオセンサーの開発
			○	○	生物学的水素生産に関する国際共同研究
2014	○	○	○	○	高効率有機・無機ハイブリッド太陽電池の理想電荷移動界面の構造と迅速フレキシブルデバイス形成技術の創出
			○	○	次世代デバイス用機能性ナノヘテロ構造の創成
	○		○		高接続性，高参加性，高従事性マルチポイント遠隔教育
2015	○	○	○	○	環境試料 RNA の大量シークエンシングと経時解析による有用遺伝子の大規模検索
		○	○	○	ASPIRE4 大学間の高分子系ナノマテリアル・ネットワーク構築
	○		○		ナノ構造半導体を用いた人工光合成系の構築
	○		○		計算論的ゲーム理論に基づく新たな情報交換方式の設計手法
	○	○	○	○	有機・無機ハイブリッド太陽電池の理想電荷移動界面の構築と迅速デバイス形成技術の創出

出典：国際室作成資料

（資料 36－５）IDEA リーグ サマースクールプログラム

Tuesday Sept 1 9am-6pm **Room TBM B1.300 (and CT-CZ A)**	Wed 2 9am-6pm **Room TBM H**	Thu 3 9am-6 pm **Room TBM C**	Fri 4 9am-6pm **Room TBM I**
Values and Robotics 8.30 Welcome and coffee 9.00 Filippo Santoni de Sio and Jeroen van den Hoven (TU Delft) *Introductory remarks: Value-Sensitive Design and Meaningful Human Control in Robotics* 10 Coffee break 10.15: Joachim De Greeff (TU Delft) *Workshop: Using VSD to Explore Ethics of Robot-Assisted Search and Rescue* 12.15 lunch 13.45 *Opening lecture by* Filippo Santoni de Sio, *at the Ethics and Engineering course* **(Room CT-CZ A) (we will walk together to the venue,as it is in another building)** 15.45 coffee break (back to **Room TBM B1.300)** 16.00 Joost Broekens (TU Delft): *Assistive robots and emotions* Discussion	**Care and Cars** 9.00 Gabriel Lopes (TU Delft) *Robots motion and interaction with humans* 10.30 Coffee break 10.45 *Care robots workshop* Aimee van Wynsberghe (U Twente). *Design for care* Heather Draper (University of Birmingham) *Ethics, older users and social robots* 12.45 lunch 14.00 *Workshop Automated cars* Marije De Vreeze (Connekt/TU Delft), *Can automated vehicles make ethical considerations?* 15.30 coffee break **18.30 Speakers' Dinner**	**Value-Sensitive Design and Meaningful Human control from theory to practice** *Workshop Zebro robot* (All-day workshop) Run by Maneesh Verma (TU Delft). *This is an interactive activity. Students will be split in two groups and will participate in an exercise on value-sensitive programming of the Zebro robots, under the supervision of the Zebro team. A plenary discussion on the work done will follow.* 9.00 Morning session 10.30 coffee break 10.45 Morning session (2) 12.30 lunch 14.00 Afternoon session 15.30 Coffee Break 15.45 Plenary discussion of results **18 Social Dinner (speakers + students)**	**Military robots and meaningful human control** 9.00 10.45 Vincent Müller (Anatolia College & Oxford Univeristy) Discussion 10.30 coffee break 10.45 Merel Noorman (Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences) Discussion 12.30 lunch 14.00 Dan Saxon (Former prosecutor International Criminal Tribunal for the Former Yogoslavia) Discussion 15.30 coffee break 15.45 Panel discussion 18 Closing drinks

出典：国際室作成資料

（資料 36－６）海外トップ大学との合同シンポジウム開催実績

開催日時	シンポジウム名・概要	ホームページ URL
平成 26 年 9 月 16 日～17 日	**ウプサラ大学・東京工業大学　合同シンポジウム** 【概要】 教育や研究における相互協力の推進のため，全学を挙げて海外で実施する初のシンポジウムをスウェーデンのウプサラ大学と合同で開催。「エレクトロニクス・材料科学分野」「物理・核科学分野」「生命科学分野」「環境・再生可能エネルギー関連分野」「産学連携と外部資金獲得」の５分野において，両大学の研究者が講演を行った。このシンポジウムにおいて，大学間交流の進展を約する基本合意書（Letter of Intent）及び共同研究覚書（MOU）が締結された。 	http://www.titech.ac.jp/globalization/stories/uppsala_symposium.html
平成 27 年 8 月 26 日～28 日	**東京工業大学・カリフォルニア大学サンタバーバラ校　合同シンポジウム，国際学生ワークショップ** 【概要】 平成 26 年４月に締結したカリフォルニア大学サンタバーバラ校との全学協定に基づく連携強化を目指し，同大学の学長，複数分野の教員及び学生を本学に招き，国際学生ワークショップ及び合同シンポジウム（大学概要，複数分野の研究発表，分科会，学生ワークショップ総括）を実施。 本シンポジウムにより，両大学の研究者が共同研究の可能性を見出し，また学生ワークショップにより研究と教育の双方において，今後の更なる交流が期待される結果となった。 	http://www.titech.ac.jp/news/2016/033152.html（合同シンポジウム） http://www.titech.ac.jp/globalization/stories/ucsb_workshop.html（学生ワークショップ）
平成 27 年 11 月 16 日～17 日	**第２回東工大－ウプサラ大合同シンポジウム** 【概要】 平成 26 年９月の第１回合同シンポジウムのフォローアップとして本学にて開催。「持続可能な社会の実現に向けた新たなテクノロジーとシステム」をテーマに，次世代型太陽電池，水素燃料電池，有機電池，省エネ性能に優れた建築，バイオ燃料などの研究成果の紹介と意見交換を実施した。産学連携やベンチャー企業設立についても議論が交わされた。 	http://www.titech.ac.jp/news/2015/032945.html
平成 28 年 2 月 29 日～3 月 1 日	**第１回南洋理工大－東工大合同ワークショップ** 【概要】 2014 年採択のｽｰﾊﾟｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ大学創成支援事業の一環として国際的な教育研究を推し進めるために，ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ南洋理工大にて実施したもの。本学からは学長，副学長をはじめ，環境工学・分子化学・界面化学等の分野の研究者が参加。両大学の研究活動の紹介，講演，分科会での発表とともに，両大学の共同研究の実施に向け意見交換を行った。 	http://www.titech.ac.jp/news/2016/034882.html

出典：評価室作成資料

（資料 36－７）YSEP について

東京工業大学

国際室・国際部の活動内容

○授業料等不徴収協定に基づく交換留学生の受入れ (2)

YSEP (Young Scientist Exchange Program)

- 学部学生（3年生以上）、修士課程学生の受入れ
- 研究室に所属し、受入れ教員の下卒論研究/研究プロジェクトを実施
- 英語で学ぶ日本事情、日本企業研究、Field Work Skills授業が必修
- 英語開講専門科目の履修も可能

・研究期間：YSEP Focused on Research（YFR）1年間
YSEP for Experiencing Japan（YEJ）1学期間
・開始時期：（YFR）9月から、（YEJ）9月から または 3月から
・受入れ人数上限：選考を経て、40-55人/年
・詳細：
http://www.titech.ac.jp/graduate_school/international/exchange/ysep.html

出典：国際室作成資料

（資料 36－８）ACAP について

東京工業大学

国際室・国際部の活動内容

○授業料等不徴収協定に基づく交換留学生の受入れ (1)

ACAP (Academic Cooperation Agreement Program)

- 学部学生(学部2年生以上)、大学院学生の受入れ
- 研究室に所属し、受入教員の指導の下で教育研究指導を受ける
- 受入教員及び授業担当教員が許可する場合には授業履修も可能

・研究期間：3ヶ月以上1年以内
（JASSO(日本学生支援機構)奨学金希望者は6ヶ月以上1年以内）
・開始時期：毎月1日から研究開始が可能
（JASSO奨学金希望者は4月、9月、10月のみ）
・詳細：
http://www.titech.ac.jp/graduate_school/international/exchange/acap.html

出典：国際室作成資料

（資料 36－９）大学の世界展開力強化事業タイプ A-Ⅰ　取組概要

大学の世界展開力強化事業　H26取組概要　東京工業大学

【構想の名称】（選定年度23年度（タイプA－ I CAMPUS Asia Pilot Program））
日中韓先進科学技術大学教育環
【プログラムの目的・養成する人材像】
本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。
【構想の概要】
本構想は、清華大学、韓国科学技術院（KAIST）と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「（1）学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「（2）大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方
本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方としている。このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行った。
○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮
プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書（Study and Research Plan）」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整えた。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行った。
相手大学からの学生に対し本学は、来日前から情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行った。
○ より高度な交流の枠組みへの展開
本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

サマープログラムにて授業をうける学生

○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定
サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行った。
○ 相手大学への本学学生の派遣
清華大学およびKAISTへ派遣学生を、学内公募をとおして選考し、派遣を行った
○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み
三大学による合同委員会を設置し、「Implementation Guidelines」を取り交わして、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを進めている。また、KAISTとの間では、ダブルディグリー締結にむけた学長レベルでの共同教育協定書を締結した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣
清華大学およびKAISTに毎年原則として各5人（計10人）の学生を派遣する。
○ 外国人留学生の受入れ
清華大学およびKAISTから毎年原則として各5人（計10人）の学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本（J）での受入	0	C7, K8	C8, K8	C9, K12	C5, K5
中国（C）での受入	0	J4, K5	J4, K6	J3, K3	J5, K5
韓国（K）での受入	0	C5, J7	C22, J6	C13, J9	C5, J5

注）H23～H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備
留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。
○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制
プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○大学の国際化の状況
全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、現在進行中の教育改革にて、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制を整えつつある。
○ 情報の公開・成果の普及
キャンパスアジア採択大学の取り組みを網羅したWebサイトを開設し、広く学内外に情報発信した。

出典：国際室作成資料

（資料 36－10）KAIST との共同学位プログラム実施のための協定書（抜粋）

Agreement on
Double Degree Master's Program in Mechanical Engineering

between

Korea Advanced Institute of Science and Technology
Department of Mechanical Engineering

and

Tokyo Institute of Technology
Graduate School of Science and Engineering
Department of Mechanical Sciences and Engineering,
Department of Mechanical and Control Systems Engineering, and
Department of Mechanical and Aerospace Engineering

（途中略）

Signatures

For
Tokyo Institute of Technology
Date 3 / 15 / 2016

Toshio Maruyama
Executive Vice President for Education and International Affairs

Professor Mitsuji Sampei
Deputy Dean,
Graduate School of Science and Engineering

For
Korea Advanced Institute of Science and Technology
Date 3 / 15 / 2016

Sung-Mo Kang
President

Professor Choongsik Bae
Chair, Department of Mechanical Engineering

出典：国際室作成資料

（資料 36－11）大学の世界展開力強化事業タイプ B-I 取組概要

大学の世界展開力強化事業　H26取組概要　東京工業大学

【構想の名称】（選定年度23年度〈タイプB－I〉）
グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク
【プログラムの目的・養成する人材像】
アジア、ヨーロッパ諸国の主要大学との協働の実績を基に、これまで個別的な交流が主であった米国主要大学とも組織的な連携ネットワークを構築し、世界的に活躍する研究者、技術者、企業人、国際機関職員等グローバルエリート人材を養成する。
【構想の概要】
欧米等の先導理工系大学との連携の下、学部生向け研究体験型海外教育プログラムと院生向けの共同指導型交換留学プログラムを中核として、入学から修了・就職まで一貫して国際人教育を行うグローバル理工系リーダー養成システムを構築する。サマープログラムやテーラーメイドの研究指導を実施することにより、理工系学生の新たな交流モデルを提示する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する基本的な考え方
本構想により実施するプログラムにおいては、パートナー大学の高い質保証システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が、効果的に履修の成果を挙げることができる認定等の制度を構築することを基本的な考え方としている。

○「修学・研究計画書」による指導、助言
個々の学生について、双方の大学の指導教員が連絡を取り合うことを原則としており、「修学・研究計画書」を交わすことにより、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、科目履修や研究実施について指導、助言を行う。

構築する国際協働ネットワーク
欧州 米国
IDEAリーグ等 Imperial College デルフト工科大 ETH アーヘン工科大 ParisTech
東京工業大学
Caltech MIT ジョージア工大 UCバークレー ワシントン大 ウィスコンシン大 ミネソタ大 スタンフォード大 ブラウン大 カーネギーメロン大
ASHREリーグ
（東工大）清華大※ KAIST※ 香港科技大 南洋理工大
アジア
※清華大、KAISTとは別プログラムを実施

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

サマープログラム参加者が談笑している様子

○ 本学が主催する「TiROP」参加学生の受入れ
Tokyo Institute of Technology International Research Opportunities Program (TiROP) の名称により、パートナー大学からサマープログラムをはじめとする研究重視型プログラムに参加する学生の推薦を受け、受入れを行った。

○ パートナー大学への本学学生の派遣
パートナー大学との合意に基づき、学内公募をとおして派遣学生を選考、決定し、派遣を行った。

○ パートナー大学との間の事業実施に関する覚書の交換
各大学との間で具体的な実施について継続的に協議を行っており、両者の間で覚書の交換を行っている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣
17のパートナー大学に、毎年各一人の学生を、「サマープログラムを中心とした教育プログラム」または「大学院共同指導プログラム」のいずれかの枠組みで派遣する。加えて、「短期派遣」の枠組みで学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ
17のパートナー大学から、毎年各一人の学生を、「サマープログラムを中心とした教育プログラム」または「大学院共同指導プログラム」のいずれかの枠組みで受入れている。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0人	22人	20人	14人	17人
学生の受入	0人	17人	25人	29人	17人

注）H23～H26は実績、H27以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備
留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また、留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制
プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。学内規程や学生向けガイドブックの英文化を進め、留学生受入れのための環境整備を行った。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、また、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 大学の国際化の状況
全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、現在進行中の教育改革にて、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制を整えつつある。

○ 情報の発信
プログラムの情報発信については、Webサイトだけではなく、Facebookを積極的に活用した。他にも、卓越した科学技術の素養を持つ理工系グローバルエリート人材の養成を継続的に行うため、高校生に対する啓発活動、長期留学への動機付けを目指しMIT、ジョージア工科大学へ学部生短期集中派遣を行った。

出典：
国際室作成資料

（資料 36－12）大学の世界展開力強化事業による外国人教員招へい実績

大学の世界展開力強化事業による招へい教員一覧

年度	所属	招へい教員名		滞在期間
H24	ミネソタ大学	教授	Joachim Heberlein	2012.10.31-11.30
H25	インペリアルカレッジロンドン	教授	Alan Atkinson	2013.10.02-10.29
H25	ジョージア工科大学	教授	Yves Berthelot	2013.11.6-11.9
H25	ジョージア工科大学	准教授	Minoru Shinohara	2013.11.28-12.24
H25	清華大学	教授	邢　新会	2014.1.23-2.10
H26	ジョージア工科大学	准教授	Brian Woodall	2014.7.25-8.24
H26	インペリアルカレッジロンドン	教授	Roderick　Smith	2015.2.3-2.19

出典：国際室作成資料

（資料 36－13）プログラム別学生交流実績数（派遣・受入）【国際室ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑのみ】

（2010～2015 年度）

（単位：人）

	プログラム名	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		合計	備考
			うち日本人学生数		うち日本人学生数		うち日本人学生数		うち日本人学生数		うち日本人学生数		うち日本人学生数		
1	派遣交換留学	47	46	34	33	26	24	39	33	42	36	57	51	245	
2	世界展開力強化事業（タイプA）	-	-	-	-	11	11	10	9	12	9	6	5	39	
3	世界展開力強化事業（タイプB）	-	-	-	-	11	10	12	11	6	4	21	17	50	
	TiROP超短期派遣	-	-	-	-	11	11	8	8	8	7	6	6	33	
4	東工大・清華大学大学院合同プログラム	1	1	6	6	12	12	8	8	2	2	7	6	36	
5	グローバル理工人育成コース超短期海外派遣（GGJ）	-	-	-	-	-	-	66	60	67	62	73	67	206	※TiROP超短期派遣・AYSEAS・フィリピン超短期派遣・学科実施、SGU超短期（ドイツ・オーストリア・スウェーデン・インド・タイ）除く
6	スウェーデン超短期派遣（SGU）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	8	8	
7	ドイツ・オーストリア超短期派遣（SGU）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	8	8	
8	モナシュ大学海外英語研修（春）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	14	17	
9	モナシュ大学海外英語研修（夏）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	11	
10	インド超短期派遣（SGU）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	4	
11	タイ超短期派遣（SGU）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	5	8	
12	Tokyo Tech-AYSEAS	16	11	15	13	15	15	16	13	16	13	15	10	93	
13	フィリピン超短期派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	6	6	6	6	12	
14	TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	15	19	
15	グローバルシステム開発研修	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	3	
16	TASTE海外短期語学学習	-	-	7	7	10	10	14	14	12	12	5	5	48	
17	ロンドン国際青少年科学フォーラム	7	6	6	5	5	1	4	4	7	6	0	0	29	
18	ストックホルム国際青年科学セミナー	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	4	
19	イオン1%クラブ	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	15	
20	G200 Youth Forum	-	-	-	-	-	-	3	3	4	3	1	0	8	
21	JSPSリンダウノーベル	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
22	ルノー財団プログラム	1		0		1		0		1	0	0	0	3	
23	AEARU学生サマーキャンプ	4	4	-	-	2	0	0	0	0	0	1	1	7	
24	ASPIRE Forum Student Workshop	-	-	5	3	5	4	5	4	5	3	5	2	25	※2010年は本学で開催のため、-としている
25	ASPIRE Undergraduate Research Academy (UGRA)	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	5	4	9	
26	IDEA League Summer School (TU Delft)	-	-	-	-	0	0	1	1	1	1	1	0	3	
	IDEA League Summer School (RWTH Aachen)	-	-	-	-	3	1	3	2	1	0	0	0	7	
合計		80	72	79	73	116	103	192	173	196	170	289	250	952	

※赤枠は2015年度新規開始プログラム

出典：国際室作成資料

（資料 36－14）平成 25～27 年度国際的な共同研究推進のための派遣・招へい支援プログラム実施状況

（単位：件）

派遣・招へい支援プログラム

【支援件数】

年度	プログラムA	プログラムB	プログラムC	プログラムD	合計
平成25年度	3	28	19	2	52
平成26年度	3	29	15	4	51
平成27年度	2	13	9	-	24
合計	8	73	43	6	124

・プログラム A：海外の企業等との共同研究推進のための教員派遣支援

・プログラム B：海外の大学等との共同研究推進のための教員派遣支援

・プログラム C：海外の大学等との共同研究推進のための研究者の招へい支援

出典：国際室作成資料

（資料 36－15）世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラム招聘者一覧及び報告（H26～27 年度実績）

平成26年度　世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラム

所属	東工大所属部局	実施内容	成果・効果
University of Cambridge	量子ナノエレクトロニクス研究センター	・招聘教員による世界トップレベルの研究に関する講義を行った。 ・特別セミナーや招聘教員の主導による世界トップレベルの研究者の招聘等により，本学の若手研究者，学生との交流を図り，国際的な視野を拡げる機会を提供した。 ・招聘教員のチームメンバーである准教授を同時期に非常勤講師として招聘し，その後，招聘教員の下で博士課程を修了した学生を特任助教として本学で雇用するなど，研究ユニット単位での交流を行った。 ・理工系基礎科目や招聘教員によるアクティブ・ラーニング授業のための環境等の整備を行った。	・招聘教員による世界トップレベルの研究に係る大学院特別講義を開講し，学生の研究意欲向上や国際的視野を広げる機会を提供することができた。本取組により，教員間・学生との交流も進み，次年度も同招聘教員による大学院特別講義を開講することとなった。
University of Cambridge	電子物理工学専攻		
Massachusetts Institute of Technology	（講義のみ）		
University of Bristol	地球生命研究所		
California Institute of Technology	地球生命研究所		

平成27年度　世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラム

所属	東工大所属部局	実施内容	成果・効果
University of Cambridge	量子ナノエレクトロニクス研究センター	・平成26年度招聘した教員を引き続き招聘し，大学院講義の開講や若手研究者や学生との教育研究上の交流を図るとともに，マサチューセッツ工科大学，インペリアル・カレッジ・ロンドン，カリフォルニア大学バークレー校，ジョージア工科大学などから新たに教員を招聘し，様々な教育研究分野での国際交流の機会を提供した。 ・招聘教員の研究室に所属している研究員等を同時に招聘し，研究室間の交流深化を図った。 ・招聘教員及び研究員等に，ゼミに参加してもらうことで，英語によるプレゼン方法のレクチャーや記載のチェックを含めた，多岐にわたる学生指導を行ってもらった。 ・建築学系分野においては，マサチューセッツ工科大学及びカリフォルニア大学バークレー校から招聘した教員が，6月14日合同でシンポジウムを開催し，開催後はブックレットを作成するなど，東工大を拠点とした分野間交流を図った。また，学生と共に学内に簡易な構築物を作成した。 ・招聘教員を中心としたシンポジウムを開催し，国内外からゲストを招き，東工大を拠点とした分野間交流を図った。 ○大学院講義 ・有機・高分子物質専攻　「Applied Vibrational Spectroscopy [25049] 1st Semester (April) (1-0-0)」 Prof. Sergei G. Kazarian ・応用化学専攻　特別講義 「Selective, Catalytic C-H Bond Functionalization with Main Group Reagents」　Prof.John Hartwig ・知能システム科学専攻　「Special lecture on Computational Intelligence and Systems Science	・招聘教員による世界トップレベルの研究に係る大学院特別講義を開講し，学生の研究意欲向上や国際的視野を広げる機会を提供することができた。 ・教員間の交流も深まり，部局間交流へのきっかけとなった。平成27年9月には工学系長が先方大学を訪問し，交流を図った。 ・同時期に招聘した教員を中心としたシンポジウムを開催することにより，学生及び若手教員の研究意欲向上，国際的視野の広がり，交流推進，企画運営能力向上など，様々な効果を得ることができた。 ・教育面のみならず，研究面においても今回の交流を契機に，共同研究を進める教員もおり，共著論文作成を開始している。
University of Bristol	地球生命研究所		
California Institute of Technology	地球生命研究所		
Imperial College London	大学院理工学研究科		
Massachusetts Institute of Technology	大学院理工学研究科		
University of California, Berkeley	大学院理工学研究科		
Georgia Institute of Technology	大学院総合理工学研究科		
University of California, Berkeley	大学院理工学研究科		
University of Cambridge	大学院情報理工学研究科		
Imperial College London	大学院理工学研究科		
Massachusetts Institute of Technology	原子炉工学研究所		
Sungkyunkwan University	元素戦略研究センター		

出典：国際室作成資料

（資料 36－16）世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラムにおける分野間交流事例①：建築学専攻によるシンポジウム「Architectural Education and Space」案内通知

出典：本学ホームページ http://www.titech.ac.jp/event/pdf/e000502_flyer.pdf

（資料 36－17）世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラムにおける分野間交流事例②：有機・高分子物質専攻における英国大学との連携（抜粋）

応用分光学におけるインペリアル・カレッジ・ロンドンとの多面的連携

いいね！ 11　ツイート

国際交流　教育　RSS

2015.09.01

東京工業大学では、「『世界のトップスクールとしての教育システム』を構築する」「『学び』を刷新する」「大胆な国際化を推進する」という3つの柱を基本方針として教育改革を進めており、その一環として、平成26年度から「世界トップレベルの海外大学教員招聘プログラム」を開始しています。最先端研究について解説する特別講義を開講し、学生に世界トップレベルの研究に触れる機会を提供するためのプログラムです。この実施により、学生の研究に対する意欲向上や国際的視野を拡げ、本学教員と世界トップクラスの大学教員との教育や研究の交流を促進し、両大学間の関係を深めることを目的としています。

平成27年度新規招聘第1弾として、大学院理工学研究科有機・高分子物質専攻においてインペリアル・カレッジ・ロンドンのセルゲイ・カザリアン教授を本学の特任教授として招聘いたしました。

左から　キンバー博士、カザリアン教授（インペリアル・カレッジ・ロンドン）、東工大の学生、ザメンゴ助教（東工大）、ボルドー大学博士学生

出典：本学ホームページ http://www.titech.ac.jp/news/2015/032075.html

（資料 36－18）本学で主催した海外政府高官による講演会

日　時	主な内容（肩書は当時）	ホームページ URL
平成 24 年 10 月 30 日	**ルース駐日米国大使来訪** （講演会タイトル：工学系特別講演会「科学・技術者大航海時代―君たちと未来を語ろう」） 	http://www.titech.ac.jp/news/2012/020272.html
平成 25 年 ４月 15 日	**ケリー米国国務長官来訪** （長官による講演） 	http://www.titech.ac.jp/globalization/stories/kerry.html
平成 25 年 ７月 17 日	**ルース駐日米国大使来訪** （大使による講演：「Supporting the TOMODACHI Generation “Let’s talk about US-Japan partnership among the younger generation”」，学生とのディスカッション） 	http://www.titech.ac.jp/news/2013/003738.html
平成 27 年 ７月 13 日	**ケネディ駐日米国大使来訪** （パネルディスカッション「Women in STEM－理工系分野での女性の活躍をめざして－」への出席，大使による講演，三島学長との懇談） 	http://www.titech.ac.jp/news/2015/031939.html
平成 27 年 10 月 14 日	**米国エネルギー省シャーウッド・ランドール副長官来訪** （安藤理事・副学長，丸山理事・副学長，岸本工学系長等との懇談，本学教員によるエネルギー・環境分野の取り組み等の紹介，副長官による講演，学生との質疑応答） 	http://www.titech.ac.jp/news/2015/032618.html

出典：評価室作成資料

中期計画【37】「海外オフィス及び大学連携の活用，国際会議開催支援の実施等，教育研究等の国際化推進のための支援を充実する。」に係る状況

教育研究の国際化推進の支援策として，海外オフィス（資料 37－１）や協定校を活用して留学説明会を実施し，アンケートをもとに出願者数に占める説明会参集者割合の分析を行い説明会の効果を検証することにより，説明会の実施方法を改善するとともに海外学生の動向を把握して学生獲得に繋げた（資料 37－２）。

各海外オフィスがそれぞれの特徴を活かし「東京工業大学・清華大学大学院合同プログラム」,「フィリピン超短期派遣プログラム」,「TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program」,「フィリピン・グローバルシステム開発研修」の教育プログラムを実施した(資料 37－３)。

これらに加えて，協定校の大学連携ネットワークを利用して，アジア地域 15 大学が参加するプログラム「Tokyo Tech-AYSEAS」を設立し，毎年約 15 名の本学学生が複数の協定校の学生との教育交流体験を共有するプログラムを実施することにより，国際化を推進した（資料 37－４）。これらのプログラムは，学生の将来にわたる国際的なネットワーク構築にも寄与した。

また，本学教員が協力してきた「エジプト日本科学技術大学(E-JUST)」事業に対する支援体制を確立し，エジプトと本学の学術交流を活性化させ，中東・北アフリカ地区における広報活動の拠点とするため,東工大エジプト E-JUST オフィスを開設した(資料 37－５)。

さらに，大学連携の研究活動への活用として，ASPIRE リーグ研究グラントにより，17 件の共同研究を支援するとともに，合計 15 のサテライト・ラボを設置した（資料 36－３，４，P338，339)。

国際会議開催の支援策として国際会議開催マニュアルを日英表記で作成した（資料 37－６)。国際会議開催に必要な関連情報を集約化して教職員と共有するとともに，本マニュアルを活用して，担当副学長のリーダーシップにより，事務局関係部署が連携して複数の国際会議を開催した（例：「教育改革国際シンポジウム」(26 年３月)，「東京工業大学-アーヘン工科大学国際産学連携共同シンポジウム」(27 年３月)，「The 2nd Uppsala University - Tokyo Tech Joint Symposium」(27 年 11 月))。

外国人研究者への支援策として，専用 HP“Guide for International Researchers”の開設（資料 37－７），居住環境の整備，生活情報支援オリエンテーションを実施し，研究交流を推進する体制を強化した。加えて，教育研究環境のさらなる国際化推進のため，ネイティブスタッフと海外経験豊富な日本人スタッフによる英文化支援チームを発足し，学内文書の英文化のマネジメント体制を整備した。本チームが蓄積・管理した翻訳の成果物に基づき東工大学内用語集及び東工大英訳スタイルガイドをまとめ学内で共有するとともに，28 年からの教育改革に伴うシラバスや WEB 等の大規模な英訳を関連教職員と連携して行った（資料 37－８～11)。

（資料 37－１）海外オフィスの概要（抜粋）

海外オフィス

本学では、海外の大学と90以上の大学間協定、100以上の部局間協定を結んで、交流を行っています。
さらに、本学と諸外国との学術交流及び国際連携を戦略的に推進するため、現在、海外4カ国4都市（タイ・バンコク、フィリピン・マニラ、中国・北京、エジプト・アレキサンドリア）に活動拠点を設置しています。

タイオフィス（TOKYO TECH THAILAND OFFICE）

タイオフィスは、平成14年9月、タイ王国首都バンコク北部近郊のタイ王国サイエンスパーク内に設置されました。本学とタイ王国は、古くから学術交流を行っており、教育面では開設後も衛星通信、インターネットによる遠隔講義を行い、学生・研究者等の人材交流などを行っています。
また、その他タイで行われるイベントにおける支援、平成19年度から開始された東工大・タイ科学技術開発庁・タイ参加大学連携大学院（TAIST）事業に対する協力、帰国留学生や留学希望者への支援窓口としての活動も行っています。

フィリピンオフィス（TOKYO TECH PHILIPPINES OFFICE）

フィリピンオフィスは、平成17年9月、フィリピン共和国の首都マニラ中心部にあるデ・ラ・サール大学マニラ校内に設置されました。
本学とフィリピンの学術交流の歴史も長く、これまで様々なプロジェクトが行われてきました。開設後は、ものつくり体験、現地企業訪問、語学研修などを組み合わせた相互学生交流、ワークショップの開催やインターネットを使用した双方向の講義授業などの教育研究活動の交流、帰国留学生を含む人脈の形成、本学の広報などの活動を展開しています。

中国オフィス（TOKYO TECH CHINA OFFICE）

東工大中国オフィスは本学と中国の協定大学との学生交流プログラムや、研究交流、および大学間の交流などの支援を行っています。清華大学構内に平成18年に設置された東京工業大学・清華大学協力事務所を拠点の一つとして活動しています。職員1名が常駐し、留学希望者への情報提供も実施しています。

エジプトE-JUSTオフィス（TOKYO TECH EGYPT E-JUST OFFICE）

東京工業大学（東工大）は、日本・エジプト両国の国家的事業である「エジプト日本科学技術大学(E- JUST)」設立プロジェクトにおいて、総括幹事大学のひとつとして積極的な支援を行っております。東工大エジプトE-JUSTオフィスは、このプロジェクトに本学から派遣される教員・学生を支援し、エジプトと本学の学術交流、学生交流を活性化するとともに、エジプトを中心としたアラブ・アフリカ地区における本学の広報拠点として、2014年4月に開設しました。

出典：本学ホームページ
http://www.titech.ac.jp/about/organization/international/overseas.html

（資料 37－２）留学説明会効果検証（一部抜粋）

海外拠点運営室による留学説明会 2008～2015年
（※2012年度実施分の抜粋）

年	実施日	国	会場	参集数	IGP(A)応募者数①	その他のプログラム応募者数②	①+②	応募／出席率
2012	10/30	タイ	カセサート大学	24	2	1	3	12.50%
2012	10/31	タイ	チュラロンコン大学	33	5	0	5	15.15%
2012	10/31	タイ	KMUTT	51	3	1	4	7.84%
2012	11/1	タイ	KMITL	25	1	0	1	4.00%
2012	11/5	インドネシア	バンドン工科大学	102	8	4	12	11.76%
2012	11/7	インドネシア	ガジャマダ大学	137	2	2	4	2.92%
2012	11/9	シンガポール	シンガポール国立大学	17	0	5	5	29.41%
2012	11/14	中国	東北師範大学（希）	9	0	1	1	11.11%
2012	12/15	フィリピン	デラサール大学	7	0	1	1	14.29%
			合計	405	22	14	36	8.89%

※IGP(A)＝国際大学院プログラム（A）
その他のプログラム＝国際大学院プログラム（B,C）、YSEP、ACAP、大使館推薦、JAYSES、AYSEAS

【分析手法】
海外拠点運営室による留学説明会では、毎回アンケートを実施、データ化し、参加者の学年、専門分野、興味のある留学プログラム等を分析している。また、国際大学院プログラムやYSEP等の短期留学プログラム出願者リストと照合を行い、実際の出願に繋がったかどうかを確認している。その結果、①留学説明会に参加した学生は、参加後数年に渡り各種プログラム出願しており、効果があること、②OBが母国語で体験談を提供することが応募につながりやすいこと、③説明会の効果は開催日程に影響されるため、対象校との日程調整が重要であること等がわかった。これらの検証結果を基に、毎年、実施方法を改善し、計画的に留学説明会を実施することができた。留学説明会を継続的に実施した海外オフィス所在国では、設置以来、留学生数の増加傾向が見られた。

2008～2015年のIGP(A)応募者数の内、海外拠点説明会参集者の割合

IGP(A)出願者数	1104
IGP(A)出願数に占める海外拠点説明会参集者割合	10.69%

出典：国際室作成資料

（資料 37－３）海外オフィスを活用した教育プログラム

【プログラム名】**東京工業大学・清華大学大学院合同プログラム**
【開催地】東京（東工大），北京（清華大）
【概 要】

東工大と中国トップクラスの清華大が共同で大学院の学生の教育を行うことで専門の知識と技能を持ち，日本語，中国語，さらに英語を駆使できる語学力とともに，日中双方の文化・習慣に精通した人材を育成することを目的とする。

平成 16 年に開設した修士課程は，両大学の２つの学位が取得できるダブル・ディグリープログラムで，ナノテクノロジー，バイオ，社会理工学の３コースがあり，各コース参加学生は両大学に同時に正規学生として在籍し，両大学の指導教員の指導と審査を受け，両大学からそれぞれ修士の学位を取得する。在籍年数は東工大学生は２年半，清華大学生は３年間。

東工大修士8期生。清華大正門前で。

平成 19 年に開始した博士課程では，３年間の共同指導の後，どちらか一方の学位を取得する。

【ウェブサイト URL】http://www.titech.ac.jp/globalization/stories/ttjp.html

【プログラム名】**フィリピン超短期派遣プログラム**
【開催地】フィリピン・マニラ
【概 要】

フィリピンオフィスを活用した，グローバル人材育成推進事業による超短期派遣プログラム。平成 26 年度から実施。内容は，大学訪問（授業参加・キャンパスツアー，現地学生との交流），企業・工場見学など。国際交流の現場を見ることができることに加え，英語力向上，現地の学生との交流を主な特徴としている。

【ウェブサイト URL】
http://www.ghrd.titech.ac.jp/w/wp-content/uploads/2015/04/daca9f9f293015c01dbff18ade81813b.pdf
（2015 年実施報告）

【プログラム名】**TAIST 学生交流プログラム（TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program）**
【開催地】タイ・バンコク近郊（タイランドサイエンスパーク内の NSTDA）
【概 要】

本学では，タイ政府からの要請を受け，タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）及びタイのトップレベルの大学群と連携し，アジア圏理工学系分野での人材育成への貢献と研究開発のハブの形成を目的として，国際連携大学院 TAIST-Tokyo Tech を展開している。

この国際的な研究環境を活用し，平成 27 年度より，学生交流プログラム（「自動車工学コース」と「組込情報システムコース」）を実施している。

＜自動車工学コース＞TAIST-Tokyo Tech の自動車工学コース講義を受講するとともに，NSTDA でのインターンシップに取り組む。

＜組込情報システムコース＞TAIST-Tokyo Tech の組込情報システム講義の受講とともに，グループワークに参加し，国際会議でポスター発表を行う。

タイランドサイエンスパーク正門

【ウェブサイト URL】http://www.titech.ac.jp/news/2015/032457.html（2015 年実施報告）

【プログラム名】**フィリピン・グローバルシステム開発研修**
【開催地】フィリピン・セブ島
【概　要】

大学院情報理工学研究科の IT 特別教育研究コースによるプログラムで平成 27 年度から実施。情報・通信系の学生が，グローバルな環境でのシステム開発を実体験を通して学習し，英語でのコミュニケーション力をつけ，異文化理解を深める目的で企画されたもの。

フィリピン大学の学生及びセブシティにある日系企業の現地エンジニアとチームベースでのシステム開発演習（市場調査・要求分析から製品アプリの試作まで）を実施する。また，その準備としてグローバルシステム開発コミュニケーションに関するトレーニングを行う。

【ウェブサイト URL】http://www.itpro.titech.ac.jp/news/detail_116.html（2015 年度実施報告）

出典：評価室作成資料

（資料 37－４）Tokyo Tech-AYSEAS について

【プログラム名】**Tokyo Tech-AYSEAS (Tokyo Tech-Asia Young Scientist and Engineer Advanced Study Program)**
【開催地】東南アジア諸国
【概　要】

学術交流協定による大学連携のネットワークを活用した本学及び ASEAN14 大学が参加する学生海外派遣プログラム。東工大生が東南アジアの国に赴き，タイ，インドネシア，フィリピン，シンガポール，ベトナム等現地・近隣諸国の大学生とともに企業，政府機関，大学，JICA 等の施設を訪問し，学生同士のディスカッションを通して相互理解を深め，国や文化の違いを超えて協働できる能力を備えたグローバルな人材の育成を目的とする。授業の一環として単位化されている。

【ウェブサイト URL】http://www.ayseas.ipo.titech.ac.jp/

出典：評価室作成資料

（資料 37－５）東工大エジプト E-JUST オフィス開設報告

東工大エジプトE-JUSTオフィス開設

いいね！ 38 ツイート

国際交流　教育　RSS

2014.05.15

東工大は2014年4月、「東工大エジプトE-JUSTオフィス」を開設しました。タイ・バンコク、フィリピン・マニラ、中国・北京につづく、4番目の海外オフィスです。

かねてより東工大は、日本・エジプト両国の国家的事業である「エジプト日本科学技術大学(E-JUST)」設立プロジェクトに対し、同大学に設置された8つの大学院専攻のうちの3専攻の専攻幹事校として積極的に協力してまいりました。また、2014年2月からは、総括幹事大学として支援を行っております。

同事業に対する支援体制を確固としたものとするため、このたび国際室海外拠点運営室の下に「東工大エジプトE-JUSTオフィス」及び「エジプトE-JUST拠点チーム」を置きました。

「東工大エジプトE-JUSTオフィス」は、東工大から派遣される教員・学生の支援を主な任務とする他に、エジプトと東工大の学術交流の活性化や、アラブ・アフリカ地区における東工大の広報拠点としての役割を担います。「エジプトE-JUST拠点チーム」は、E-JUST事業に関係の深い本学教員が構成員となり、東工大エジプトE-JUSTオフィスの活動を支援します。

出典：本学ホームページ http://www.titech.ac.jp/news/2014/027647.html

（資料 37－６）国際会議開催マニュアル（目次部分抜粋：日本語・英語）

教職員向け

国際会議開催マニュアル

本学の教職員が国際会議を行う際に役立つ情報を集めました。特に、**本学での必要な手続き**を中心として掲載しています。

目次

開催前	会場を借りる	運営組織を作る	東京工業大学主催・共催の名義使用申請	プログラムの作成
	使用言語の設定	予算の策定	宿泊施設	広報について
	参加登録	論文アブストラクト	レセプション・昼食・コーヒーブレイク	安全保障貿易管理のチェック
	ビザ申請に必要な書類の送付	表敬訪問の設定	キャンパスツアー	パネル等の物品借用
	旅費を支出する	交通関係	講演謝金を支払う	配付資料等作成
	参加者への最終案内・看板設置	リハーサル	中止の場合	
当日	会場準備	受付	来賓対応	喫煙場所・AED・廃棄物・無線LAN
後日	広報記事を作成する	報告書の作成	お礼状の送付	
リンク集	JNTO	外務省プロトコール		

Faculty and Staff

International Conference Manual

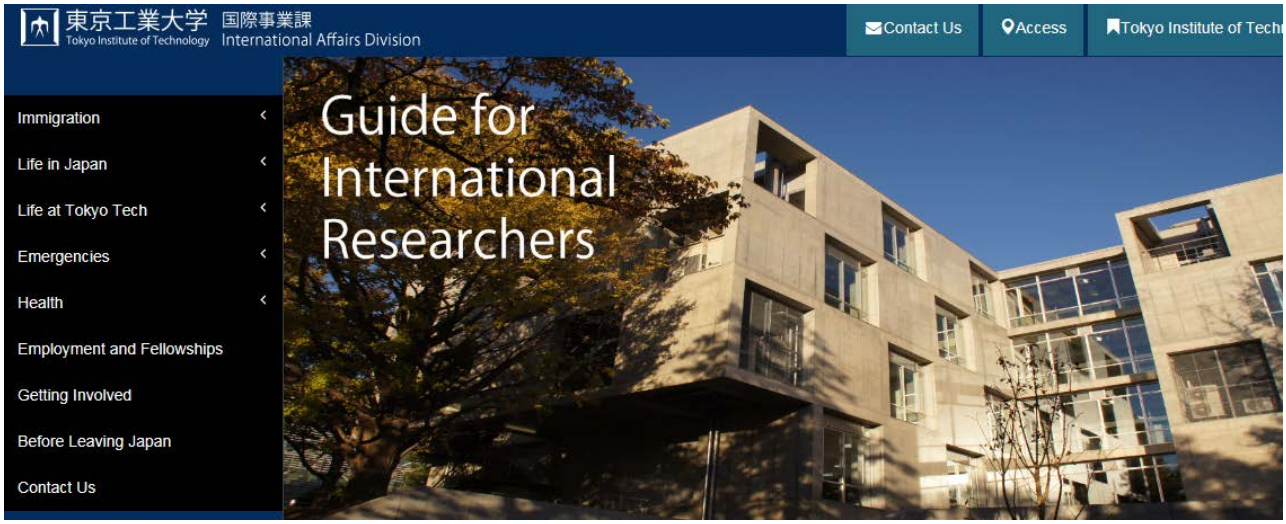
This manual contains useful information for helping faculty and staff members organize and conduct international conferences. The manual focuses mainly on the **Tokyo Tech procedures that event organizers have to complete.**

Contents

Before the Event	Securing a venue	Creating an operational structure	Applying to use the "Tokyo Institute of Technology " name as an organizer/co-organizer	Creating a program
	Selecting language(s)	Fomulating a budget	Accomodation	Public information
	Registration	Paper abstracts	Reception/Luncheons/Coffee breaks	Security export control sytem
	Sending documents required for visa applications	Courtesy calls	Campus tours	Borrowing panels and other equipment
	Paying for travel expenses	Transportation	Paying speaker fees	Creating handouts and other materials for distribution
	Final notifications to participants, sign placement	Rehearsal(s)	Cancellations	
Day of the event	Preparing the venue	Reception	Handling guests	Smoking Area/AED/Waste/Wireless LAN
After the event	Writing publicity pieces	Writing reports	Sending thank-you letters	
Links	JNTO	Ministry of Foreign Affairs protocol		

出典：本学ホームページ（学内限定ウェブページ）

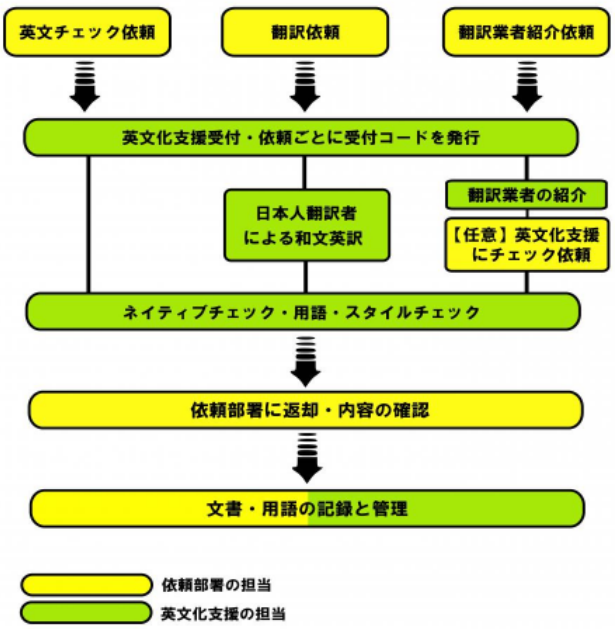
（資料 37－７）外国人研究者支援 HP“Guide for International Researchers”



出典：本学ホームページ（学内限定ウェブページ）

（資料 37－８）英文化支援について

英文化支援の流れ(フローチャート)



出典：本学ホームページ
（学内限定ウェブページ）

（資料 37－９）東工大学内用語集（一部抜粋）

（＊用語集は，学内で使用される用語の標準的な英訳をまとめたもので随時更新されている）

		日本語		英語
学院				school
	理学院			School of Science
		数学系		Department of Mathematics
		物理学系		Department of Physics
		化学系		Department of Chemistry
		地球惑星科学系		Department of Earth and Planetary Sciences
			数学系	Undergraduate major in Mathematics
			物理学系	Undergraduate major in Physics
			化学系	Undergraduate major in Chemistry
			地球惑星科学系	Undergraduate major in Earth and Planetary Sciences
			数学コース	Graduate major in Mathematics
			物理学コース	Graduate major in Physics
			化学コース	Graduate major in Chemistry
			地球惑星科学コース	Graduate major in Earth and Planetary Sciences
		火山流体研究センター		Volcanic Fluid Research Center
		理財科学研究センター		Center for Research in Financial Sciences

日本語	英語
シンボルマーク	Tokyo Tech Seal
ロゴマーク	Tokyo Tech Logo
スクールカラー	Tokyo Tech School Color
人文社会系道場	Dojos for Science and Technology
科学技術道場	Dojos for Humanities and Social Science
夏季一斉休業	Summer Holidays at the Institute
アカデミックリーダー教育院	Academic Leader Program
プロダクティブリーダー教育院	Productive Leader Program
リーディングプログラム教育院群	Program for Leading Graduate Schools
IIDPキャリア科目群	IIDP Career Courses
東京工業大学グローバルリーダー教育院長	Director, Academy for Global Leadership Tokyo Institute of Technology
グローバルリーダー教育院博士後期課程	Doctoral Program of the Academy for Global Leadership
道場科目群	Dojo courses
国立大学法人東京工業大学	National University Corporation Tokyo Institute of Technology
教員	Teaching Staff
研究員	Researcher
教育研究支援員	Education/research assistant
工大祭	Tokyo Tech Festival
すずかけ祭	Suzukake Festival
グローバル理工人育成コース	Global Scientists and Engineers Course
キャリア能力養成プログラム	career education
大学歌	Tokyo Tech Song

出典：国際室作成資料

（資料 37－10）東工大英訳スタイルガイド（目次部分抜粋）

（＊英文化支援チームでは，本ガイドに従って英訳の際，書式を統一している）

Tokyo Institute of Technology Style Guide:
For Written Communications in English
By English Documentation Support Services
Contents

About the Style Guide 1

1 Tokyo Institute of Technology
1.1 Referring to Tokyo Institute of Technology 2
1.2 Tokyo Tech Addresses and Contact Details 2
1.3 Internal contact details 3
1.4 Tokyo Tech Building Names, Floors, and Room Numbers 4
1.5 Titles 4
1.6 Capitalization of Departments, Titles, etc. 5

2 Italics for Journals, Bulletins, etc. 6

3 Dates 6

4 Times 8

5 Emails and Web References
5.1 Mass Emails in Japanese and English 8
5.2 Email Tags 9
5.3 Boilerplates 9

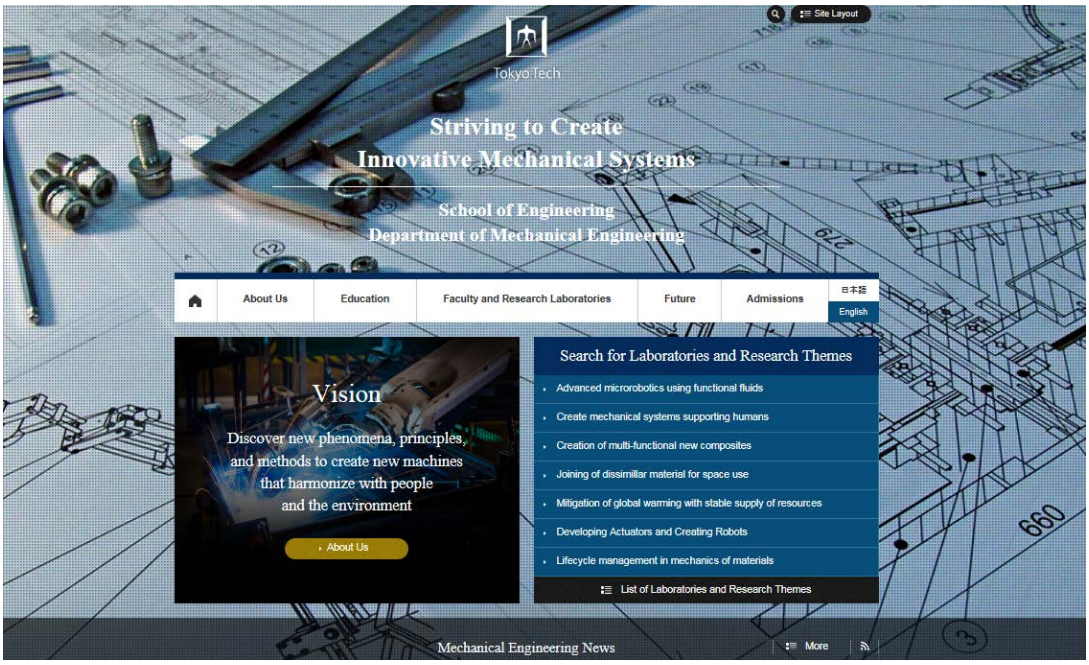
6 Formatting and punctuation
6.1 Japanese punctuation and symbols 9
6.2 Bullet Points 10
6.3 Romanization of Japanese Words 10

7 Exceptions to Chicago Style
7.1 Em dashes 11
7.2 Labeling and Referring to Figures, Tables, Appendices, etc. 11
7.3 Bullet Points 11
7.4 Form Names 11
7.5 Email is not hyphenated 11

8 Text from Other Source, Universities, etc. 11

出典：国際室作成資料

（資料 37-11）教育改革に伴う新ウェブサイト（英語版）の例（工学院機械系）



出典:本学ホームページ http://educ.titech.ac.jp/mech/eng/